

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10753

研究課題名(和文)「ナースのように考える」看護大学生の臨床判断力育成プログラム開発と検証：2群比較

研究課題名(英文) Evaluation of "Think Like a Nurse" Program to Develop Clinical Judgement among Baccalaureate Nursing Students.

研究代表者

三浦 友理子 (MIURA, Yuriko)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：70709493

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は看護系大学4年生に対するコンセプト・ベースド・ラーニングを用いた「ナースのように考える」臨床判断能力育成プログラムを構築し、評価することを目的とした。プログラムはコンセプトを学ぶe-learning、シナリオ学習で構成した。参加者は看護系大学4年生25名である。結果は、適切な臨床判断の得点において事前4.28に対し事後7.60 ($p < .001$)であり、有意な上昇が認められた。参加者の自由記述におけるコンセプト学習の利点として、重要な情報の特定が容易になった、コンセプトの使用によって情報の意味付けが容易になった等の意見が挙げられた。本研究で作成した動画教材等は修正後公開する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護職の優れた判断にもとづく実践は、看護ケアの質と患者アウトカムの向上をもたらす。しかし、米国とオーストラリアにおける重症患者インシデントの分析では、新卒看護師の2/3以上が安全でない臨床判断を行っていることが報告されている。我が国においては、看護師の役割の拡大に対応できる看護実践能力の育成を目指し、第5次保健師助産師看護法指定規則改定にて、臨床判断能力の基盤を強化することが明記されたが、臨床判断能力の教育方略に関する妥当性の高い研究はまだほとんどなくエビデンスの創生が喫緊の課題となっている。本研究結果は、臨床判断育成の1方法としてコンセプト・ベースド・ラーニングを用いる有用性を示した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to evaluate "Think Like a Nurse" Program to develop clinical judgement ability using Concept-based Learning for nursing practice among Baccalaureate Nursing Students. The program consisted of (1) e-learning about concepts for nursing practice, and (2) scenario learning for facilitating sense of salience and clinical image. Participants were 25 nursing students. Findings showed a significant increase in the appropriate clinical judgment score of 4.28 pre-test to 7.60 post-test ($p < .001$). And the benefits of concept-based learning were reported by participants that students could identify important information, and make sense of information through the use of the concept. The e-learning contents that created in this study will be made available to the public.

研究分野：看護教育学

キーワード：臨床判断 移行期教育 専門職開発 看護実践能力 看護学生

1. 研究開始当初の背景

2017年度病院における看護職員需給状況調査(日本看護協会)によると、新人看護職員の離職率は7.8%であり、この5年改善が見られず横ばいで推移している。新人看護師(以下、新人)の離職、ならびに臨地現場に対応しない看護実践能力は、看護師の人材確保・人件費・医療安全上のリスクを増大させている(日本看護協会,2014;2016)。2010年に努力義務化された新人看護職員研修制度の開始後、サポートする実地指導者等の困難が報告され(佐々木,2013)、リアリティショックへの対応は新たな局面を迎えている。この状況を打開するためには、臨床、基礎教育にかかわらず、多方向から施策を構築することが望まれる。しかし、看護基礎教育における対策への研究は、臨床への移行支援の実践報告にとどまり、対象者は限定的でエビデンスの蓄積が少ない(西谷他,2015)。

看護職の優れた判断にもとづく実践は、看護ケアの質の向上とそれに伴う患者アウトカムの向上をもたらす(Thompson & Stapley, 2011)。しかし、米国とオーストラリアで報告された重症患者インシデントの分析では、新卒看護師の2/3以上が安全でない臨床判断を行っている(Levett-Jones et al., 2010)ことが報告されている。我が国においては、将来、看護師の役割の拡大に対応できる看護実践能力の育成を目指し、第5次保健師助産師看護法指定規則改定にて、臨床判断能力の基盤を強化することが明記されたが、臨床判断能力の教育方略に関する妥当性の高い研究はまだほとんどなくエビデンスの創生が喫緊の課題となっている。

Tanner(2006)は、学生から看護師へと臨床判断力の質的転換が必要とされると述べており、「ナースのように考える」思考過程を基礎教育で学ぶ重要性を主張している。臨床判断をサポートする思考の枠組み(Concepts for Nursing practice)を活用するプログラムでは、臨床判断力の向上が報告されている(Lasater,2010)。

2. 研究の目的

本研究は、看護系大学4年生に対するコンセプト・ベースド・ラーニングを用いた「ナースのように考える」臨床判断能力育成プログラム(CBL for CJ)を構築し、評価することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) CBL for CJのプログラム構築と妥当性の検討

目的：CBL for CJのプログラム構築と妥当性の検討すること

方法：文献検討および学生の臨床判断の記述分析により、臨床判断を育成する教育方略として情報の要素を全体として相互に関連を持つようにまとまりを作り理解すること(体制化方略：辰野, 1997)、重要な情報の抽出と臨的にイメージすること(ベナー, 2013)、実践しその場のデータを用いて解釈を結論づけること(Tanner, 2006)を特定した。本要素を包含するプログラム素案を作成し、専門家4名による妥当性の検討を依頼した。調査は、教育方略と学習プロセスの整合性、学習プロセスと学習目標および学習目標と学習方法の整合性がある・要改善の2件法で回答を求め、2名以上の専門家が要改善と判断した項目に関して、修正を行った。

(2) シナリオ(課題)特定の臨床判断得点評価指標の作成

目的：フィジビリティ研究における限定的な有効性を評価するためのシナリオ(課題)特定の臨床判断得点評価指標の作成し妥当性を検討すること

方法：研究者2名によりシナリオごとにthe National Council of State Board of Nursing(米国看護師国家試験協会)が示す臨床判断のプロセス-cuesに気づく、cuesを分析する、仮説を生成する、解決方法を生成する、行動を起こす、成果を評価-に沿って、適切な臨床判断の要素(記載されるべき情報)を抽出した。これに基づき、臨床の専門家4名による妥当性の検討を依頼した。調査は、シナリオにおける適切な臨床判断の要素(記載されるべき情報)が適切か否かの2件法と不足している要素について自由記載を求めた。2名以上の専門家が不適切と判断した項目に関して、修正を行った。

(3) CBL for CJのプログラム効果検証研究の実行可能性を検討するフィジビリティ研究

目的：実装を評価するため、プログラムの適切性評価を実施する(学生/ファシリテーター)。
：限定的な有効性を評価するため、プログラムの事前事後において、臨床判断の記述の評価を実施する。

方法：看護系大学4年生に対し、CBL for CJプログラム(計8時間)を実施し、限定的な有効性を評価した。評価は、プログラムの事前事後で異なるシナリオの臨床判断の記述を3-2で設定した評価指標で採点し、得点を算出した。得点は平均の比較についてt検定を行った。自由記載は内容ごとに整理した。

4. 研究成果

(1) CBL for CJ プログラム開発と妥当性の検討

本研究開始当初は、本プログラムの内容を臨地における実習を含む方法として計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、正規の教育課程であっても臨地での実習がこれまで通り行えない状況があった。本プログラムは正規の教育課程外でありさらに実施が難しい状況であった。そのため、シミュレーションおよび ICT を活用した臨地以外の場（大学内・プラットフォーム内）で行うことができるプログラムに切り替え構築した。

専門家 4 名による妥当性の検討により、2 名以上の専門家が要改善と判断した項目は 2 項目であった。1 項目は 1. e-learning の学習方法の洗練であり、1 項目は 4. シミュレーションの学習方法の洗練であった。修正を反映した内容を表 1 に示す。

表 1. CBL for CJ プログラム

学習プロセス	各学習目的	各学習方法
1.e-learning により CBL の視点を学ぶ	コンセプトに基づき、既習の学習内容（コンセプトの定義・形態機能・病態生理・疾病治療・看護・臨床例）を復習する	学習資料を用いた知識の自己学習・知識確認クイズ（オンデマンド教材）
2.シナリオ学習により、CBL の視点を使得って患者の現状を解釈し、看護を考える	シナリオ上の患者について、コンセプトに基づき現在の状況を解釈する。また、看護（観察項目・観察方法・適切なケア）を画面で提示する。	プラットフォーム上に示されたシナリオについて、問いに基づき個人やグループで状況把握および看護を記述する。学習後、看護師の思考発話動画を臨床判断の例として閲覧する
3.模擬カルテを使用し、CBL の視点を使得って患者の現状を解釈し、看護を考える	模擬カルテから、重要な情報を収集し、患者の状況や看護を記述できる	模擬カルテから、現病歴、入院後の経過、既往歴、を収集し、重要なコンセプトを特定、状況把握と看護を記述する。
4.模擬カルテによる状況把握をもとに、ファーストラウンドのシミュレーションを行い、臨床判断を行う	模擬カルテによる状況把握によりファーストラウンドを計画でき実施する、観察結果をもとに新たに状況を臨床判断する	模擬カルテから状況把握し、ファーストラウンドでの実践内容を計画しシミュレーションを実施する 実施後は報告を行い観察データを用いて臨床判断を口頭で報告・記述する

ファーストラウンド・・・その日の初めての訪問時に行われる状況把握のためのラウンド

(2). シナリオ（課題）特定の臨床判断得点評価指標の作成

シナリオ（課題）ごとの臨床判断得点評価指標原案を用い、臨床の専門家 4 名による妥当性の検討を依頼した。2 名以上の専門家が不適切と判断した項目は 1 項目であり、要素から削除した。また、不足している要素として 3 点指摘され、他の専門家 3 名の同意を得た 2 点を追加し、評価指標とした。

(3) CBL for CJ のプログラム効果検証研究の実行可能性を検討するフィジビリティ研究

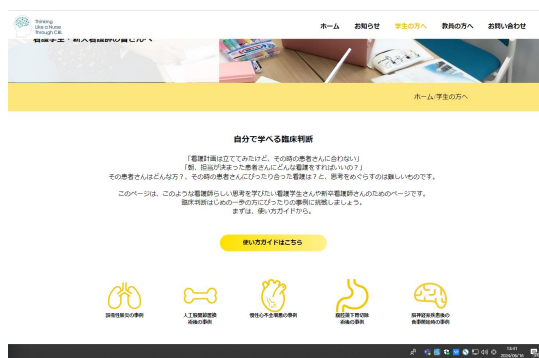
看護系大学 4 年生 25 名に実施したところ、適切な臨床判断の得点において事前 4.28 に対し事後 7.60 ($p < .001$) であり（表 2）、有意な上昇が認められた。参加者の自由記述におけるコンセプト学習の利点として、重要な情報の特定が容易になった、コンセプトを使用することによって情報の意味付けが容易になった、状態が変化する患者の臨床判断に対応できるようになった等意見が挙げられた。

表 2. CJ スコア前後比較

	CJscore	対応サンプルの差					t 値	自由度	p値
		m	SD	SE	差の 95% CI				
					下限	上限			
事前	4.28	-3.32	2.82	0.56	-4.49	-2.15	-5.88	24.00	0.00
事後	7.60								

(4) 教材の公開

本研究で開発した教材は、HP に掲載し、今後、教員によるファシリテートなしに学習できる教材としてリニューアルし、一般に公開予定である。5つのシナリオによって学習することができる ICT 教材を掲載する。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三浦 友理子	4. 巻 31(4)
2. 論文標題 学んだ知識を活かせる知識に!事例で身につく臨床判断(第1回) 臨床判断って何だろう(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブチナース	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 友理子	4. 巻 31(5)
2. 論文標題 学んだ知識を活かせる知識に!事例で身につく臨床判断(第2回) 臨床判断って何だろう 臨床判断の学びかた	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブチナース	6. 最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦友理子	4. 巻 32(12)
2. 論文標題 事例でみる!超実践 患者情報のとらえかた	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ブチナース	6. 最初と最後の頁 15-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 4件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 三浦友理子・奥裕美
2. 発表標題 4年生にむけた「ナースように考える」力を育成する演習と実習
3. 学会等名 日本看護学教育学会32回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三浦友理子・山形泰士・池田葉子・古屋真理子
2. 発表標題 実践的に看護を教える『臨床判断』（臨地での教育における取り組み編）
3. 学会等名 日本看護学教育学会32回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奥裕美、三浦友理子、畠山有希
2. 発表標題 臨床判断力を高めるコンセプトを基盤にした学習活動
3. 学会等名 日本看護学教育学会 第29回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦友理子
2. 発表標題 シンポジウム「看護臨床判断のパースペクティブー教育から研究へ」
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 三浦 友理子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 187
3. 書名 臨床判断ティーチングメソッド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小山田 恭子 (OYAMADA KYOKO) (70719252)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633)	
研究分担者	奥 裕美 (OKU HIROMI) (80439512)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633)	
研究分担者	宇都宮 明美 (UTSUNOMIYA AKEMI) (80611251)	関西医科大学・看護学部・教授 (34417)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関